

日韓中会議レポート

第3回日韓中3カ国EIA/SEA会議2013の報告

柴田裕希

千葉県の子葉商科大学において2013年11月7日から9日までの3日間のスケジュールで「第3回日韓中3カ国EIA/SEA会議2013 (The 3rd Japan-Korea-China Tripartite EIA & SEA Conference, 2013)」が開催された。この会議は、以前は日韓の環境アセスメントに関する共同ワークショップという形式で始まったもので、その後2011年から中国が加わり、現在の3カ国の国際会議として開催されてきた。一昨年の中国、昨年の韓国に続いて、第3回目となる2014年は我が国での開催となった。

当会議は、環境アセスメント学会の国際交流委員会(委員長、田中章:東京都市大学教授)のもと、原科幸彦実行委員長(東京工業大学名誉教授・千葉商科大学教授)の企画によって開催され、環境アセスメント学会および千葉商科大学から開催援助をいただいた。加えて開催にあたっては、我が国の環境省および日本国際協力機構(JICA)、日本貿易振興機構(JTRO)、日本環境アセスメント協会(JEAS)から後援をいただいた。本報告では、この国際会議の概要とその様子を紹介する。

当会議は、日本、韓国、中国の3カ国を基本に、環境アセスメントに関する研究者、政府関係者、実務者という枠を中心に各国の現状や課題、研究、新

たな取り組みに関する情報の共有を目的に開催された。今回の参加者は国内から40名、韓国から11名、中国から18名、さらにベトナムアセス協会会長も加わり、合計70名にのぼり、例年になく多くの関係者が参加する会議となった。

会議テーマは「持続可能な社会におけるマナーとしての影響評価」であり、会議冒頭には千葉商科大学の島田学長から歓迎の挨拶として、当会議の意義を力強くうったえる講演がなされた。続く原科教授による基調講演では、我が国の震災や原発事故を踏まえて、人間活動の持続可能性の確保にはミニアセスを含む広い範囲でのアセスの必要性が説明された。

会議では、初日の午前中に3カ国のアセスメントに関わる学会の研究者、政府関係者、産業界関係者らのそれぞれ中心的なメンバーによるマルチセクター円卓会議が開催された。これは今年初めての開催で、3カ国の今後の協力と連携のあり方について重要な話し合いがもたれることとなった。その後、初日は8本、二日目は27本、合計35本の研究発表が行われると同時に、初日の最後には6本のポスター発表が行われた。会議での研究発表は、研究者、行政関係者、産業界という幅広い参加者を背景に、



写真1 初日に開催されたマルチセクター円卓会議参加者による集合写真



写真2 鳥田千葉商科大学学長による講演を熱心に聞く会場の様子



写真3 発表者と会場の間で熱心な議論が繰り広げられた

各国の最新のトピックを反映したものが多かった。日本からは合計12本の発表があり、その中には東日本大震災後の緊急的な電源確保に関するアセスメント制度の動向や、再生可能エネルギーの開発に関連したアセスの取り組みに関する研究も報告された。韓国からは合計11本の発表があり、自然再生を取り入れた韓国国内のアセスメントの事例報告に加えて、韓国国外での開発援助におけるアセスメントの取り組みに関する発表も見られた。中国からも10本を超える発表があり、戦略アセスの本格的な導入を含む最新の制度改正に関する報告に加えて、

PM 2.5や北京の健康影響評価など、日韓でも関心の高いテーマについての研究報告も行われた。三日目には、合計17名が参加して浅草、スカイツリー周辺でテクニカルビジットも開催され、盛況のうちに終わることとなった。

当会議の実行委員会は、今後、当会議の成果をブローディングスとしてまとめて出版することを予定している。また、2014年の同会議の第4回開催地も中国に決まった。今後も、これらに関する情報は環境アセスメント学会webサイトで発信される予定である。



写真4 参加者の集合写真